

ぐんまこどもの国児童会館

にこっと通信

nicotto tsu-sin!

今年もどうぞ
よろしくお願いします!



にこっとちゃん

2016.1.15
第52号

発行／公益財団法人群馬県児童健全育成事業団



昨年のゆるキャラBグランプリではにこっとちゃんへの応援・投票ありがとうございました。
～ぐんまこどもの国児童会館 開館25周年記念事業より～

あけましておめでとうございます

本年もみなさまのご来館を、心よりおまちしております!

ぐんまこどもの国児童会館 スタッフ一同

フラネタリウム新番組

新番組

一般番組「アースシンフォニー 光と水が奏でる空の物語」



©KAGAYA Studio

命の惑星「地球」を見つめる。
わたしたちがすむ地球はこんなに不思議だった。
美しく迫力のある映像を詰め込んだ全天映像詩。オーロラ、流星群、雪や雲。
地球を包む大気が起こす美しい現象を 360 度に広がるドームスクリーンで体感しましょう。
人気声優アーティスト水樹奈々が、癒しのナレーションで空の物語へと誘います。
巡る季節の星空を壮大で心地よい音楽とともに楽しんでください。

平成 28 年 12 月 4 日(日) まで

上映時間 平日 15:30～

土日祝・春休み 13:00～、15:00～

こども番組「ちびまる子ちゃん」

絶賛上映中!



平成 28 年 6 月 5 日(日) まで

上映時間

土日祝・春休み 11:00～、14:00～

© さくらプロダクション/日本アニメーション

特別番組「それいけ! アンパンマン～星の色と空の色～」



絶賛上映中!

平成 28 年 3 月 6 日(日) まで

上映時間 平日 14:30～

土日祝 10:00～

©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

児童健全育成
講演会

「子どもの貧困と日本社会

～つながりの中で生きる～」

日時 3月12日(土) 13:30～15:30 (受付13:00～) 会場 2階多目的ホール

対象 一般(小学生以上)※未就学児の入場不可 定員 300名(先着順) 託児15名(未就学児対象)

講師 湯浅 誠氏(社会活動家、法政大学教授、反貧困ネットワーク事務局長)

申込方法 2月2日(火)～ 電話または直接来館の上、お申し込みください。

共催:群馬県児童館連絡協議会 後援:群馬県民生委員児童委員協議会 ぐんま地域活動連絡協議会



休館日

1月18日(月)・25日(月)

2月1日(月)・8日(月)・15日(月)・16日(火)・22日(月)・29日(月)

3月7日(月)・14日(月)・22日(火)

★春休み中の月曜日は休まず開館します。



ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町480

TEL.0276(25)0055 FAX.0276(25)0059

URL <http://www.kodomonokuni.or.jp/>

群馬県内児童館ミニフェスティバル

高崎市 倉賀野児童館



今年も 10月31日(土) 高崎市倉賀野児童館、11月7日(土) 太田市世良田児童館にて群馬県内児童館ミニフェスティバルを開催しました。当日は両会場とも天気に恵まれ、多くの来館者でにぎわいました。

やっぱり一番の人気は「泥だんごの色遊び」です。「泥だんごのおっちゃん」こと講師である三波川ふるさと児童館「あそびの学校」の山崎茂先生の声が響き渡ります。「でした！最高ランクのマリンブルー！本日2人目はいつも遊びにくる男の子です！」皆が一同に注目します。男の子はなんと誇らしげです。そして他の参加者は最高ランクを目指して、ますます泥だんごの世界にのめり込んでいきます。

フェイスペインティングコーナーは女子からの人気が高いようです。「みてみて！かわいいでしょ。」先生達に満面の笑顔でお披露目する姿がたくさん見られました。「うまくお化粧できないなあ。」女の子がつぶやいた一言に職員も思わずにんまりです。

「この工作の作り方、もらってもいいですか？」いつも遊びに来るお母さんから声を掛けられます。リサイクル工作展示コーナーは身近な材料で家でも簡単に作ることが出来るため、大人にも人気です。

「あったよ！僕たちの児童館。」「こんなにたくさん児童館ってあるんだ。」こちらは児童館紹介パネル展示コーナーです。群馬県には「僕たちの児童館」がたくさんあります。[他の児童館にも行ってみよう]パネル展を通じて、そんなことを感じてもらえたのではないのでしょうか。

ミニフェスティバルは各地域の児童館の先生方を中心に児童館ボランティアの方や保護者の皆さん等のご協力を得て開催しています。ミニフェスティバルをきっかけに地域のコミュニティとしてもより一層児童館の輪が広がればと願っています。

太田市 世良田児童館



今回ミニフェスティバルでおじゃましました世良田児童館のリサイクル工作を紹介します。



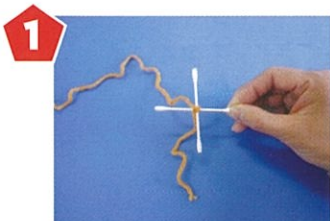
毛糸の雪の結晶ペンダント

～世良田児童館 2月の工作より～

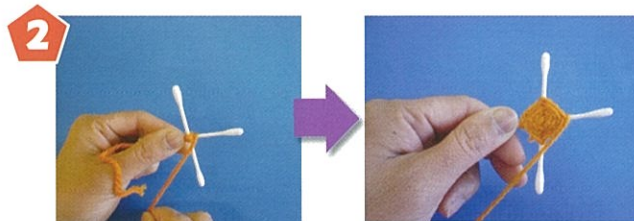


材 料

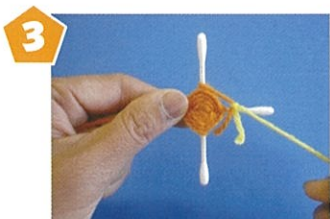
・綿棒 2本 ・毛糸 適量



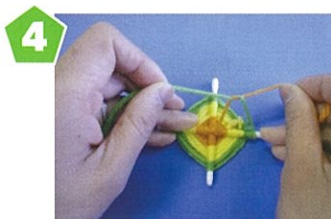
綿棒を2本クロスして持ち、真ん中に毛糸を結ぶ



毛糸をそれぞれの綿棒に巻き付けながら、となりの綿棒へと移っていくのを繰り返す。



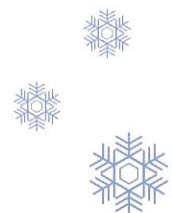
毛糸が終わりそうになったら、好きな色の毛糸を結び、続けて綿棒に巻いていく。



裏返して、最後の毛糸と最初の毛糸のはじを結ぶ



綿棒に首からさげるための毛糸を結んでできあがり！



ふれあい仲間づくり

ふれあい仲間づくり事業から2つのイベントをご紹介します。
ひとつめは、「とことん外で遊び隊」。児童会館では、公園かくれんぼの丘周辺を使って、定期的に自由な遊び場を設けています。スタッフはプレーワーカーとして、自らも遊びながらこどもたちの自発的な外遊びを支援します。今年4回目、11月1日(日)の開催は、穏やかな秋晴れに恵まれて、まさに外遊び&野外活動日和。たくさんのこどもたちやファミリーが、この遊び場に集まってくれました。

今回の目玉はなんと言っても「落ち葉のプール」。こどもたちは落ち葉を舞上げたり、みのむし気分で落ち葉のお布団にもぐったりと、遊び方は様々ながらこの季節の恵みをめいっぱい楽しんでいました。次回は少し時間が空いて、3月6日(日)の開催です。春の訪れを感じながら、外遊びで汗を流してみませんか? たくさんの遊具を用意してお待ちしております。



ふたつめは、11月7日(土)に行われた「みんなでいっばいあそんじゃおっと!」。児童会館では、定期的に運動遊びや集団ゲームを行っています。今回はそのスペシャルバージョン。宮城県仙台市から渡邊由貴先生(仙台市虹の丘児童センター)をお招きして、たくさん体を動かして遊びました。

恥ずかしそうにしているお友達や、遠慮しておとなしいお友達も、みるみるうちに先生のペースに引き込まれていきます。実は渡邊先生、運動遊び研究サークル「きんにく〜ず」として全国的な活動をしている、運動遊びのプロフェッショナル。準備運動の愉快的なダンスに始まり、じゃんけんやおにごっこといった定番の遊びから、王様陣取り・トムジェリ(リレー競争)といった「きんにく〜ず」の鉄板ゲームでおおいに盛り上がりました。参加してくれたこどもたち、お手伝いしてくれた大人のみなさん、そして渡邊先生、みんなでいっぱい汗をかいてたくさんの笑顔でお開きとなりました。

いきいきママ講座

「親子でラフターヨガ」

11/6(金) いきいきママ講座「親子でラフターヨガ」を開催しました。親子を対象とした講座で、15組の参加がありました。今回は職場体験に来ていた中学生も一緒に参加してくれました。

講師には、NPO法人ラフターヨガジャパン所属、ラフターヨガリーダーの阿久津信子先生をお招きしました。

ラフターヨガ(笑いヨガ)とは、笑いヨガの呼吸法を組み合わせたエクササイズです。誰でも楽しみながら自分のペースで行うことができ、心身共にすっきりし、元気になることができます。

参加者の皆さんラフターヨガ初体験! 「テレビでは見たことがあったけど…」 「ヨガのように体を動かすのかなあ。できるかなあ。」と、初めは皆さん「楽しみ」と「ドキドキ」が半々のようでした。しかし、ちょっぴり恥ずかしそうな表情も、時間と共に満面の笑みに変わっていました。声を出すことから始まり、身体を動かしながら笑いを取り入れたり…バンザイやハイタッチで大きな動きをしたり…自然と身体が温くなりました。ひとつの

動きの終わりには、手拍子とかけ声(「ホホハハ」「ベリグー、ベリグー、イエーイ」「ヤッター、ヤッター、イエーイ」)をします。参加者同士で目を合わせたり、手を合わせたりしているうちに、自然な笑いとともに楽しい雰囲気になっていました。

参加者からは、「近頃は、自分から自発的に笑うことが少なくなった。今日は自ら自然と笑えてとても良かったと思う」「心も身体もすっきりした」などの感想をいただき、皆さんとても楽しかった様子でした。

阿久津先生は、様々な地域で講座を開催して活躍されています。Facebook もお持ちですので、興味のある方は是非ご覧ください。



第24回

ぐんま
こどもの

夢大賞

入選
作品

「ぐんまこどもの夢大賞」は、児童文化の振興を図る目的で、群馬県と当児童会館の運営主体である公益財団法人群馬県児童健全育成事業団の共催で毎年行っています。18歳未満を対象とした絵画と、小学生以上18歳未満を対象とした童話の2部門を夏休みに合わせて募集を行い、今年も絵画6,720点、童話484点というたいへん多くの皆様から作品をいただきました。

審査の結果、絵画は最優秀賞3点、金賞16点、銀賞24点、銅賞40点、奨励賞94点が、童話は最優秀賞1点、金賞4点、銀賞6点、銅賞5点、奨励賞10点が入賞しました。ここでは、最優秀賞を受賞したみなさんの作品とインタビューを紹介します。



★インタビュー内容★

- ①受賞を知ったときの気持ち ②制作時間 ③どうしてこの作品をかこうと思ったか
④次は何をかきたい? ⑤将来の夢 ⑥保護者のことば

絵画

最優秀賞



群馬大学教育学部附属小学校(1年)

なかむら

みこと

中村

尊智 さん

「バイオリンでえんそうかい」



①うれしいと思いました。

②2日ぐらい

③バイオリンが今大好きなのでこの絵を描こうと思いました。

④まだ思いつかないです。

⑤バイオリニスト & バイオリンの先生です。

⑥4才から3年間バイオリンを習っています。小学校に入ってから絵は描き始めました。

最優秀賞



館林市立第六小学校(3年)

もりなが

守永

あいしや

愛紗

さん

「たまごの国でみんなとすみたいな」



①おどろきました。とてもうれしかったです。

②3週間くらいかかりました。

③たまごがすきなので、たまごの国を描きたいと思ったからです。

④もっと良い絵、楽しい絵を描きたいです。

⑤画家になりたいです。

⑥小さい頃から自分で空想して絵を描くのが好きで、時間をかけて満足するまで取り組んでいました。画家になりたいという夢をがんばって実現させてほしいと思います。

最優秀賞



伊勢崎市立第一中学校(3年)

おかもと

岡本

ななみ

七海

さん

「夢空」



①表彰式のハガキをもらい、3年間で最後だったのでとてもうれしかったです。

②約1カ月(夏休みいっぱい)

③自分で想像して、それを絵にしてみました。

④人物画(自画像、人の写真などを見て)

⑤インテリアデザイナーになりたいです。

⑥いつも静かに描いています。びっくりしました。

ぐんまこどもの国児童会館 開館 25 周年記念事業 「こどもの国チャレンジ！みんなで記録に挑戦！」

10月24日・25日に行われたこのイベント、来館してくれたみなさんに「みんなで巨大ドミノたおしに挑戦！」「みんなで作ろう！手から生まれるモザイクアート」と2つのチャレンジをしてもらいました。ホールいっぱい2万5千個のドミノと、体が簡単に隠れるほどの大きなモザイクアート、果たして2日で完成させることができるのか？？そんな心配をよそに、たくさんの方にご協力いただいて無事に完成を迎えることが出来ました。最後は出来たてのモザイクアートのお披露目と、待ちに待ったドミノたおしの時間。参加してくれた子どもたちはもちろん、たくさんの方に見守られながら、ドミノたおしも無事にゴール！みなさん本当にありがとうございました。

また28日、県民の日には開館25周年記念式典を行い、児童会館に

永きにわたり貢献していただいた「アクションチーム TMC プロジェクト」、「太田子育て支援ボランティアネットワーク」、「ぐんまこどもの国とともに歩む会」の3団体に感謝状を贈呈致しました。式典後は人形劇団ボボロによる人形劇「ぞうの鼻はなぜ長い」をお楽しみいただきました。

ぐんまこどもの国児童会館は、これからもまたみなさんに楽しんでいただけるよう、子ども文化の発信基地づくりに励んで行きます。



ドミノたおし



モザイクアート



中学生の 職場体験

ぐんまこどもの国児童会館には、年に数回、保育士等養成校の施設実習や、中学校の職場体験のため、実習生が来ています。

11月の平日には、太田市立毛里田中学校の2年生6人が1日、太田市立東中学校の2年生3人が2日間、ぐんまこどもの国児童会館の仕事を体験しました。

毛里田中学校の6人は、クラフトルームの自由利用プログラム「パッカパッカなるこ」(11/1～26 実施)の材料の下準備やサイエンスワンダーランドの清掃等を行いました。また、この日はいきいきママ講座「親子でラフターヨガ」や、群馬県内の児童館や放課後児童クラブの先生を対象とした「ゲーム・運動遊び」の研修会を行っていたので、参加者と一緒に体験してもらいました。乳幼児を連れたママにまざっての「ラフターヨガ」体験は、とても気恥ずかしい様子でしたが、「ゲーム・運動遊び」の研修会では、陣取りゲームやリレーを取り入れた鬼ごっこで、



さすがが中学生！、と感心するほどの動きをみせてくれ、大活躍でした。

東中学校の3人は、科学工作「キラキラ紙コップ」の下準備の他、クリスマスの飾り付けや色画用紙で雪だるまの装飾の製作、プラネタリウムのアナウンスを行いました。飾り付けや装飾の製作では、丁寧に時には自分のアイデアや作業効率を考え、アナウンスでは緊張しているにもかかわらず、少しの練習で上手に行うことができ、この時も中学生の頼もしさを感じました。

中学生の職場体験は、中学生にとっては初めての仕事体験でとても緊張する経験とは思いますが、仕事をしている大人やその環境に触れるので、学校での勉強とはまったく異なる経験になります。一方、受け入れる職員にとっては、仕事の進め方などを見つめ直したり、より分かりやすい教え方を学ぶよい機会につながり、とても勉強になります。



これから来館した時に実習生に会ったら、がんばっている姿をあたたく見守り、応援してください。



「コラボDEサイエンスショー」

科学の楽しさを伝える「コラボDEサイエンスショー」を館林市にある向井千秋記念子ども科学館と合同で初めて開催しました。初日の会場はぐんまこどもの国児童会館、翌日は向井千秋記念子ども科学館にて、お互いの館が普段実施しているサイエンスショーを組み合わせる各日3プログラムずつ行いました。内容は光や空気、化学反応などで、合計600人以上の方々に楽しんでいただきました。



児童会館のサイエンスショーは通常40人の会場で実施しているため(そのため名前もプチサイエンスショーと言っています)、今回は100人を超える会場に対応出来るよう見えやすいように視覚的に工夫をして実演しました。参加した人達に喜んでもらえ、サイエンスショーをする側も大変勉強になった2日間でした。

尚、ぐんまこどもの国児童会館では、プチサイエンスショーを月1～2回土日祝日に開催していますので、遊びに来て下さい！